

## 講習会報告

公益社団法人日本技術士会  
海外活動支援委員会

# 平成28年度海外技術協力実務講習会

～海外との技術交流・技術協力をどのようにして創るか～

記

- ・日時 : 2017年1月28日(金) 13:00～17:00
- ・会場 : 葺手第二ビル 技術士会AB会議室
- ・主催 : 公益社団法人日本技術士会 海外活動支援委員会
- ・後援 : 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
- ・参加者 : 合計100名

東京会場 78名 (関係者16名含む)

地域本部web参加 22名

内訳 北陸本部 1名

中部本部 9名

近畿本部 5名

中国本部 4名

四国本部 3名



東京会場全景

## 1. 概要

本講習会のサブタイトルは～海外との技術交流・技術協力をどのようにして創るか～であり、海外活動を行いたい技術士が海外技術協力のチャンスを作るための知識、そのために必要な知識を得ることを目的としている。

国際委員会小林経明委員長による開会挨拶の後、講演に入った。前半の講演として、独立行政法人国際協力機構(JICA)の稲村様より、「これまでのキャリアを生かしてJICAの国際協力を目指す方へ」とのタイトルで講演をして頂いた。続いての講演は海外活動報告として海外活動支援委員会の委員でもあるイーグルベルグマンジャパンの大坪技術士より、海外業務活動報告として「インド、ベトナム等への技術支援活動報告」の講演をしてもらった。後半は



総合司会 小川技術士

海外活動支援委員会の委員の4名のパネラーによるパネルディスカッションコーナーとし、熊澤副委員長による司会の下、初めに4名のパネラーによりショートスピーチをしてもらい、その後話題を更に発展させてパネルディスカッションを行った。パネルディスカッション終了後、最後に中村委員長の閉会の挨拶で本講習会を終了とした。講習会終了後、会

場で有志による情報交換・名刺交換会を開催、参加者の交流を図った。また本講習会はWEB接続で北陸本部、中部本部、近畿本部、中国本部及び四国本部の参加を頂いた。感謝したい。

## 2. プログラム

### (1) 開会挨拶

日本技術士会理事、国際委員会委員長  
小林経明氏

講演開始に先立って海外活動支援委員会の上位委員会である国際委員会の小林委員長に開会の挨拶を頂いた。その中でこの度の講習会の後援を頂いた JICA 殿への謝礼の言葉及び WEB 中継で参加の各地域本部にお礼の言葉があった。



小林委員長の開会挨拶

### (2) 講演

講演 1 「これまでのキャリアを生かして JICA の国際協力を目指す方へ」

- ・技術士として参入可能な JICA 事業及びポイントの紹介
- ・JICA の海外安全対策

独立行政法人国際協力機構(JICA) 国際協力人材部次長 稲村次郎氏

講演 2 海外業務活動報告：インド・ベトナム等技術支援活動報告

イーグルブルグマンジャパン (株)、技術士 (機械・経営工学部門) 大坪利行氏

### (3) 情報提供：海外業務の課題と対策～海外業務経験技術士による情報提供～

パネラーによるミニ講演とパネルディスカッション

司会：海外活動支援委員会副委員長 技術士 (情報工学部門) 熊澤壽人氏

#### 1) パネラーによるミニ講演

- ・講演 1 「海外業務とリスクマネジメント」  
海外活動支援委員会委員 技術士 (機械部門) 松井武久氏
- ・講演 2 「海外業務契約書作成上の留意事項」  
海外活動支援委員会委員 技術士 (総合技術監理・情報工学部門) 吉村元一氏
- ・講演 3 「海外業務と安全保障貿易輸出管理」  
海外活動支援委員会委員長 技術士 (化学部門) 中村博昭氏
- ・講演 4 「海外活動支援委員会の海外業務紹介の状況報告」  
海外活動支援委員会副委員長 技術士 (経営工学部門) 鈴木陸夫氏

## 2) パネルディスカッション

「海外での仕事の見つけ方」

パネラー（4名） 松井武久氏、吉村元一氏、中村博昭氏、鈴木陸夫氏

(4) 閉会挨拶 海外活動支援委員会委員長 技術士（化学部門） 中村博昭氏

(5) 総合司会 海外活動支援委員会副委員長 技術士（衛生工学部門） 小川 斉氏

(6) 情報交換・名刺交換会：講習会終了後開催。

## 3. 講演概要

### (1) 講演

・講演1 「これまでのキャリアを生かして JICA  
の国際協力を目指す方へ」

独立行政法人国際協力機構（JICA）

国際協力人材部 稲村次郎氏

JICA のビジョンは「すべての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発」であり、このビジョンの下で幅広い海外支援活動を行っている。JICA は技術者を積極的に募集しているが、これに応募するためには「PARTNER 国際協力人材登録」に登録する必要がある。応募する案件は JICA の「ODA 見える化サイト」、「JICA ナレッジサイト」、「JICA 図書館」などで調べることができる。JICA では外務省や大使館などと共に海外の技術者の安全をサポートしている。しかし、もちろん個人の安全意識も必要で、情報収集と共に、目立たないこと、行動を予測せれないことが必要である。



JICA 稲村次郎氏による講演

・講演2 「インド・ベトナム等技術支援活動報告」  
イーグルブルグマンジャパン（株）

技術士 大坪利行氏

大坪利行氏はインドとベトナムでの豊富な海外活動経験を持っており、これまで経験された海外支援の具体的事例を、ユーモアを交えた話をしていただいた。インドはITや3次元CADの技術は世界最高峰であるが、それを用いて生産される製品については日本のきめ細かい指導が必要と思う。インドには「お客様は神様である。」という概念がなく、「製造するものが神様。」という考え方である。さらに、カースト制度の名残が残っており、日本人がインド人と一緒に働く場合は注意が必要である。大坪氏はインドやベトナムの国情や歴史に通じており、海外で活動するためにはこのような知識と経験が重要であろう。



大坪技術士による講演

## (2) パネラーによるミニ講演

### ・講演1 「海外業務とリスクマネジメント」

技術士 松井武久氏

技術士が活動を行う時に、活動に対して影響を与える要因がリスクである。リスクにはプラス(=チャンス)とマイナスの要因がある。従ってリスクをいわずらに恐れるだけでなく、これを利用することも大切である。一方具体的なマイナスリスクとしては、自分の安全と健康の確保、仕事の獲得、利益と損失、コンプライアンス(技術士倫理、契約違反、外為法)などがある。これらについては十分な注意や情報収集が必要である。



松井技術士による講演

### ・講演2 「海外業務契約書作成上の留意事項」

技術士 吉村元一氏

日本と異なり、国際取引は性悪説に基づいて行う必要があり、法規制、法的責任、訴訟のリスクに備えるために英語の契約書は是非とも必要である。契約書の形式は自由であるが、次の観点からの注意が必要である。契約書は双方の合意内容を誤解の生じないように記載されていなければならない。また、当方を不当に拘束する項目や法令に抵触する項目が無いことを確認することも必要である。海外で技術支援活動する場合、契約書は必須である。



吉村技術士による講演

### ・講演3 「海外業務と安全保障貿易輸出管理」

技術士 中村博昭氏

技術士が海外で業務を行う上で「技術士倫理」に従うことが最も大切であるが、法律に従うことも最低限必要である。技術士が従うべき法律に外為法があり、武器や軍事転用可能な高度技術の輸出や提供を禁止している。技術士の技術支援には製品の設計、製造、使用にかかわる技術の提供がある。この中には文章やプログラムなどの形のあるもの以外に、技術指導のような形の無いものもある。技術士が提供する技術は、これらをすべて含めて「役務」と呼び、物と同様、輸出管理の対象になっている。



中村技術士による講演

・講演4 「海外活動支援委員会の海外業務紹介の状況報告」

技術士 鈴木陸夫氏

海外活動支援委員会では希望する技術士に海外業務の紹介を行っている。技術士パーソナルデータベース(PDB)に登録している技術士は、これに応募することができる。昨年度は中国、韓国、台湾、インドネシアから合計257件の支援依頼があった。これに対して、96人の技術士から応募があり、成約件数は5件であった。もう一つの方法は韓日財団を利用する方法である。韓日財団を通して支援を依頼する韓国企業にコンタクトできる。



鈴木技術士による講演

(3) パネルディスカッション

司会： 技術士 熊澤壽人氏

パネラー： ミニ講演技術士（4名）

松井武久氏、

吉村元一氏、

中村博昭氏、

鈴木陸夫氏

最後に、海外経験の豊富な4名のパネラーにより、「海外での仕事の見つけ方」というテーマでパネルディスカッションがあった。各パネラーが、仕事の見つけ方や海外活動のエピソードなどの紹介を行った。



熊澤技術士による司会



パネルディスカッション風景  
司会(左)+4パネラー(右)

#### (4) 閉会挨拶

海外活動支援委員会委員長 中村博昭氏  
最後に主催者である海外活動支援委員会の  
中村委員長が閉会の挨拶を行った。

この中で、参加して頂いた会員に対する謝辞と  
今後とも海外活動に関心を持ってもらいたい、  
可能ならば海外委員会の委員になってもらい  
一緒に活動してほしい旨の話も入れ閉会  
の挨拶とした。



中村委員長による閉会挨拶

#### (4) 情報交換・名刺交換会

講演終了後、会場で情報交換・名刺交換会を実施し参加者の交流を図った。立食形式で時間も限られていたが、参加者同士の親睦を図り情報交換を行うことができた。今後の参加者の海外活動機会拡大の一助となれば幸いである。

以上



情報交換・名刺交換会風景